

歯科医師は、う蝕や歯周病などの代表的な歯科疾患以外にも、口腔に関連する多彩な疾患に遭遇することは少なくありません。しかし、多くの患者さんの治療に追われながら、症状に関連する他科での対応について知ることは困難であり、また、誰かに相談するにしても歯科医院や歯科外来ではなかなか即座に対応することも難しく、結果的には「様子を見ましょう」「経過を見ましょう」、もしくは「歯とは関係ないでしょう」「大きな病院に行ったほうがいいでしょう」「内科で相談してみたらいいかもしれません」などで終わらせていることが多いのではないのでしょうか？

医療者が患者に提供する情報が不十分だと、患者も正確に理解できないままとなるため、症状があっても適切な科を受診することなく症状を増悪させたり、インターネットで雑多な情報を手に入れてかえって不安になったりするなどの不利益が生じます。

そこで、この本を診療室の片隅においていただき、何かのときに参考にしてもらふことにより、「どうやら、こういう病気の可能性もあるようですから、〇〇科で診てもらおうといいようです。このような対応があるらしいので、受診してみてください」と、即座に紹介状を書いて渡すことができます。歯科医師と患者の双方が適切なイメージをもつことができるため、不安なく、適切な科へ受診することができ、スムーズに治療に結びつくと思います。

現状の医療制度は、どうしても科別の対応になりやすく、「たらいまわしされた」などと言われることもあります。もちろん、医療者側からの論理では、最大限その患者の診察をしているわけですが、ひとつずつステップを踏んで進むしかないため、結果的にいくつもの科を受診していただくことになり、治療に入るまでに時間がかかってしまう場合も少なくありません。

この本が、各科、とくに医科と歯科との橋渡しとなることにより、患者と医療者との誤解を少しでも解消し、患者に「よく調べてもらった」「丁寧に診てもらった」と満足してもらえれば幸いです。